

チェックリストの各項目に関する評価基準（離乳完了前）

A(機能)	B分類	C項目	指導・管理が必要であると判断する基準	
食べる	哺乳	先天性歯がある	視診による先天性歯(先天歯、出生歯)の有無を確認する。	
		口唇、歯槽の形態に異常がある(裂奇形など)	視診による口唇・歯槽の形態異常の有無を確認する。	
		舌小帯に異常がある	視診により以下の症状の有無を確認する。 ①舌小帯短縮症を呈している。 ②舌の挙上時に分葉舌がみられる。 ③舌小帯の運動制限を認める(舌尖を歯列の外に出すことができない)。	
		乳首をしっかり口にふくむことができない	視診により乳首をしっかり口にふくむことができるか否かを確認する。	
		授乳時間が長すぎる、短すぎる	保護者への問診、視診によりリズムカルな吸啜運動ができているか適切な授乳時間(15～20分)で哺乳できているか否かを確認する。	
		哺乳量・授乳回数が多すぎたり少なすぎたりムラがある等	保護者への問診により月齢に応じた哺乳量と授乳回数について確認する。	
	離乳	開始しているが首の据わりが確認できない	首が据わってから離乳が開始されているか否かを確認する。	
		スプーンを舌で押し出す状態がみられる	保護者への問診、視診により適切な離乳食の与え方をしているか否かを確認する。	
		離乳食が進まない	保護者への問診、視診により適切な離乳食の与え方をしているか否かを確認する。 ①9～11か月で、離乳食摂取時の口唇の動きを確認し、左右への舌と口角の偏位がみられない場合、すりつぶし機能の獲得が遅れていると判断し、離乳食の形状(量・固さ)を調整する。 ②12か月～18か月では離乳食摂取時の口唇閉鎖、舌の動きを観察し、前歯でのかじりとりや側方でのすりつぶしが行えているか確認し、食形態の調整を行う。	
	話す	構音機能	口唇の閉鎖不全がある(安静時に口唇閉鎖を認めない)	視診によりずっと口を開けている所見がみられるか否かを確認する。
	その他	栄養(体格)	やせ、または肥満である	(カウプ指数: {体重(g)/身長(cm)} ² × 10 で評価)* 現在 体重 g 身長 cm カウプ指数: _____ 出生時 体重 g 身長 cm やせまたは肥満でないか確認する。
		その他	口腔周囲に過敏がある 上記以外の問題点 ()	鼻、頬や顎などの口の周辺、口の中に触れた途端に顔をそむけたり、全身に緊張がみられる場所があるか否かを確認する

嚥下時に鼻腔に食物・水分の漏れがみられる(鼻咽腔閉鎖不全)か否かを確認する。

嚥下前後、嚥下時のムセの有無を確認する。

原始反射、特に口腔周囲の口唇探索反射(口の周囲に乳首などが触れるとその方向を追いかけるように顔を向ける)や吸てつ反射(乳首などが口に入ると、舌で包み込むようにして吸おうとする)等が残存している。